◎ 和歌山市立河北中学校

平成27年度 全国学力・学習状況調査結果の概要と取組

調査内容

実施日:平成27年4月21日(火)実施対象:3年生5学級148名

全国学力·学習状況調査は、出題範囲を調査実施学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、国語・数学・理科について、「知識」と「活用」の2種類の問題が出題されます。

国語A・数学A・理科では、身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識や技能などについて出題されます。

国語B・数学B・理科では、知識や技能を実生活の様々な場面で活用する力、様々な課題解決のための構想を立て、実践し、評価・改善する力などについて出題されます。

※ 理科については、知識と活用の問題が一体的に出題されます。

《 国語科の調査結果に見える本校生徒の傾向 》

目的に応じて文章を要約したり、文章の中心的な部分と付加的な部分を読み分け、要旨を捉える等、読む力」を聞かれている設問において、県や全国平均を上回っている項目があります。

課題① 「書く力」が問われている設問、例えば、「伝えたい事実を明確に書く」、あるいは、「伝えたい事柄が明確になるように文章の構成を考える、相手に効果的に伝わるように書く」などが問われているところでは弱いものがあります。

課題② 「漢字」が読めない、意味がわからない等で正答に至っていない人も少なくありません。

《 数学科の調査結果に見える本校生徒の傾向 》

「数と式」「図形」「関数」「資料の活用」の4領域において、計算問題や一問一答形式の問題等の正答率は比較的できています。しかし、少し応用が試されるような出題になったり、あるいは、問題文等の文章が長くなったりすると途端に正答率が下がる傾向にあります。

課題① 立体の体積を求める等の公式を理解できていなかったり、関数や方程式の知識が曖昧で、 間違って覚えてしまったりしている生徒が少なくありません。

課題② 他教科にも見られますが、証明など自分の言葉で説明したり、長文の文章問題を読み解くことが苦手であったりして、あきらめている生徒が少なくありません。

《 理科の調査結果に見える本校生徒の傾向 》

前半の知識・理解を問う問題については、全国平均及び和歌山県平均を上回っていた。しかしながら、後半の活用の問題になると、正答率は下がる傾向があります。また、記述問題については、無解答率が高くなっています。

課題 他の教科と共通しますが、「なぜそうなるのか」という視点を育て、段階的思考を養う ために、自分の言葉でまとめる、あるいは、発表する習慣を身につけさせることで「書 かない」「書けない」状況の改善に努めていきます。

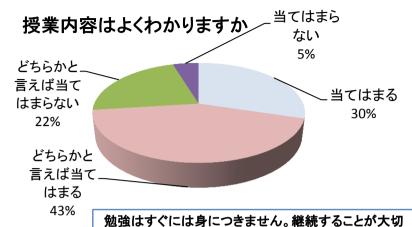
※上記の解決策に基づき、「学力向上部会」を中心に、取組の改良点を出し合いながら、 生徒の学力向上に向け、取組んでいきます。

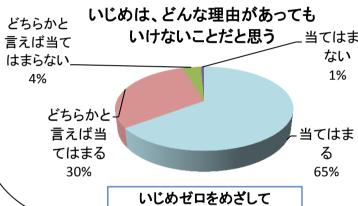
質問紙調査の結果分析より

生徒質問紙調査は、生徒の学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査です。

《 学習意欲等について 》

授業に対する生徒の意欲は決して低い ものではなく、「勉強は好きですか」 「大切だと思いますか」「よくわかり ますか」といった項目では、どの教科 においても右のグラフのような傾向に あり、「当てはまる」「どちらかと言 えば当てはまる」の合計では県平均よ りも高く、教科によっては全国平均よ りも高いものがあります。





-当_{てはまら} **《 学校生活・道徳性について 》**

「人の気持ちがわかる人間になりたいと思いますか」「学校の規則を守っていますか」等の項目に対しては、9割以上の生徒が、「そうありたい」あるいは「守っている」という回答をしています。また、昨今、特に気になるいじめに関しては、左のグラフのような回答をしてくれています。

調査結果を受けて本校で取り組んでいくこと

取組①

「各教科における言語活動の充実」をテーマに、授業研究・授業改善につとめます。

取組②

「振り返り学習」などを通じ、**基礎的・基本的な力の定着**をはかる取組をすすめます。

取組③

「河北っ子」の取組に代表されるように、補習の充実をはかっていきます。

協力をお願いします

生徒質問紙の中で、「普段、1日あたりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりしますか」という項目(テレビゲームやスマホなどの使用時間を聞く項目も同じような結果が出ている)が、全国や県平均と比べ、割合として大きい状況です。 定期テスト発表中はひかえるなどのルールを作ることも考えていただければと思います。

